

探検! インターネット

特集



の気になる現場

インターネットの向こうはこうなっている。

地球の裏側にメールが届く! とか、インターネットでライブ中継が楽しめる! とか、とにかく楽しいインターネット。でも、ちょっと待って欲しい。楽しんでいるだけじゃ、ちょっと気がすまなくなってきた。

電子メールは一体どこを通って届いているの? ライブカメラは一体どんなところに置いてあるの? 新聞をにぎわせているインターネットマンションに住んでる人ってどんな人? あああ、気になる! 考え出すと眠れなくなる、インターネットの気になる現場を本誌編集部が直撃取材。

インターネットの裏側をとくにご覧あれ!

インターネットマガジン編集部
openingillustration: MACO photo: picatti dandolini



地下数十メートル、NTTの入口洞窟に潜入！あなたの電子メールはここを通過している。
【日本電信電話株式会社(NTT)】▶248ページへ

プロバイダーではありません。日本のインターネットのへそは、都内の某所にあった。
【NSPIXP】▶250ページへ

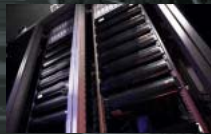
プロバイダーの老舗に直撃取材。インターネットへの発着駅の1日は？
【IIJ】▶251ページへ

プロのネットサーフ集団の情報収集は、なんと人力だった。
【YAHOO! JAPAN】▶252ページへ

24時間フル活動！日本のインターネットの最新現場と炊飯器の関係はいかに。
【慶應義塾大学 村井研究室】▶253ページへ

拍手が飛んだ！あなたの家で教授が演奏。インターネットライブ最前線！
【坂本龍一インターネットライブ】▶254ページへ

Provider



これって本当にラジオ局!? 映像も見れて、チャットで番組に参加もできる。
【湘南ビーチFM】▶256ページへ

女子アナの本音が思わずポロリ。番組作りの熱気がそのままに。
【ジバングあさ6】▶258ページへ

おじさんがていねいに画像を補正。世界で1枚のセーターは、苦勞がいっぱい。
【インターネット】▶259ページへ

ワイパー、ウォッシャーで完全装備。独り風雪に耐えながら映像を送り続ける。
【富士山ライブカメラ】▶260ページへ

一度住んだらやめられないって本当？ マンション住人に聞いてみた。
【インターネットマンション】▶262ページへ

プリントアウトの合間にお洗濯&お買い物。奥様の一日に密着レポート。
【SOHO主婦】▶264ページへ

これが今回直撃取材した インターネットの現場だ

富士山のふもとから、都心の地下、場所の明かせない秘密の某ビル、深夜の本誌編集部…。編集部が取材に散った場所は合計13か所。

インターネットの情報の道は、家のパソコンから始まり、モジュージャックをすり抜けて、NTTの電話回線を通じてプロバイダーを通過して、世界中に通じている。そして、その先には、ライブカメラが孤独に富士山を映していたり、ギガスイッチが黙々と稼働していたり、早起きの女子アナがパンをかじりながら毎日反省日記を書いていたりと、モニターには映されることのないリアルな裏側が展開されているのだ。

インターネットの流れをたどりながら、その裏側を見れば、ブラウザで見るサイバーワールドがちょっと違って見えることだろう。では、出発！

NTT



NSPIXP



Provider



地下数十メートルに人工洞窟発見！ あなたのメールはここを通ったかも？



▶ 日本電信電話株式会社 (NTT)

メールを送ったり、ネットサーフィンしたり、インターネットにはなくてはならない電話回線。でも、この線はどこに通じているのだろうか？ 電話線をたどってその謎に迫った編集部は地下数十メートルの巨大人工洞窟に遭遇したのだ！



 東京都だけで延長
約390km！
電話線は地下をはう

この写真は何だか分かるだろうか。これは、都内の地下にある“とう道”と呼ばれるNTTの地下トンネルなのだ。この、太いケーブル1本の中には髪の毛よりも細い電話回線が、なんと3600回線分収められているのだ。そのケーブルが無数に、はるかかなたまで延びている。どれだけの会話が行き来しているのだろうか。

案内されたのは、電ヶ関近辺のとある地

下数十メートル。ヘルメットを手渡され、頑丈な扉を開けると、そこには、なまあたかくて、ほこりっぽい地下空間がひろがっていた。中は狭く、ケーブルだらけで人が1人やっと通れるくらいのところもある。耳をすますと、遠くで地下鉄の走る音や水のしたたる音がする…。われわれの暮らしている地下に、こんな洞窟が広がっていたのだ。



① この重たい扉を開けると、そこには無数のケーブルが！



電話って、 実は巨大な糸電話？

いつもなにげなく使っている電話の声は、こんな電話線のルートをとどって届いている。家から延びた電話線は、まず電柱などを通してこの地下のとう道と呼ばれる巨大洞窟に入り込む。そして、この左の写真の地下道ですんずんと進んでいき、交換局にたどりつく。そこから、相手先の交換局を指定されるのだ。すると、再び地中にもぐり、さらに、そこから相手の交換機を目指す。到着すると、相

手の家の電話を目指して地下から抜け出し、電柱などを通して電話のベルを鳴らすというわけだ。

この長い長い道程を一瞬のうちにやってのけるのもすごいけれど、実は電話の声が相手と通じるときは線と線が同舎の交換機を通じて“つながった”、いわば糸電話状態になっているということも驚きだ。



- ① 家から出た電話線は、電柱などに集まって地下を目指す。
- ② こんな機械から家の電話線が外に出ていく。君の家で見かけたかな？



③ ケーブルのつなぎ目。この中には、3600本の銅線が正確につながっているのだ。



え、全部手作業で つなげてるんですか！？

この巨大なケーブル群、いったいどうやってこのトンネルに引き込んでいるのだろう。このトンネルを案内していただいた土木部の野寺晴一さんにかがった。

「このケーブルは、すべて人間が引き込んでいます。重たいですから大変な作業です。しかも、途中で継ぎ目があって、さらにケー

ブルを長くつなげるときは手作業で回線をつなげます。もし、つなぎ方を間違えると3600回線をすべてチェックしなくては行けないので、大変です(笑)。でも、我々もプロですからほとんどそんな事態はありませんけど」
ううむ、はるかかなたまで続いているこのトンネルに、この重たいケーブルを人間が引っ張ってきて、つなげてチェックしているのかと思うと、気が遠くなるなあ。



生活の基本だから 回線は無事故があたりまえ！

しかし、事故や災害が起きたらどうなるのだろう。地下水の浸水とか、台風の大雨とか。地震とか...雷とか、火事とかおやじとか...。なんだか心配になったところで、再び野寺さんが登場。

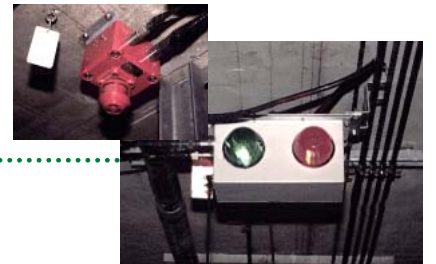
「え、事故ですか？最後に起きたのは10数年前です。でも、それ以来1件もないです。

このエリアに関してはトンネルができてから、事故なんて一度も起きたことはありません。トンネルの中は各種センサーによって24時間集中監視しているのはもちろん、水が入ってきても自動的にポンプで排水するようになっています。この、とう道を通る電話線は、阪神淡路大震災のときも無傷でした」

自信たっぷりに答えてくれてほっとひと安心。さすがNTTなのだ。



- ④ 地下の安全と働く人を守るため、厳重な監視体制が敷かれている。



意外と細かった 4.5Mの専用線

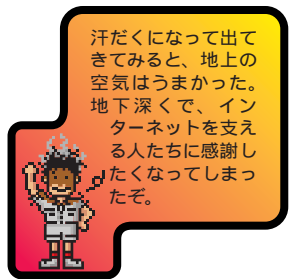
プロバイダーの広告とかに、太い回線を用意！なんて書いてあるけど、4.5Mの専用線なんてことになると、むちゃくちゃ太いケーブルのような気がするのだが、どうなのだろう。

「いやあ、そんなに太くないですよ(笑)。髪の毛よりも細いんじゃないですか」

と野寺さんに、一笑にふされてしまった。「現在、置き換えを進めている光ケーブルなら、本当に細いですからね。4.5Mくらいならそれ1本で送れてしまいます。この髪の毛よ

り細い線に、音声はもちろんインターネットのデータや、将来はテレビ電話の映像も流れるんです」

なるほど、質問してみても恥ずかしくなりました。ちょうど、光ケーブルをつなぐ工事に遭遇したのでそととのそくと、本当に極細のファイバーを、拡大鏡でのぞきながら1本1本手作業でくっつけていた。こんな細い線に、声はもちろんメールやリアルオーディオ放送やショックウェーブゲームが通っているのかと思うと驚きのなだ。



汗だくになって出てきてみると、地上の空気はうまかった。地下深くで、インターネットを支える人たちに感謝しなくてはならないぞ。



インフラ

プロバイダーではありません 日本のインターネットのへそは 都内の某所にあった!

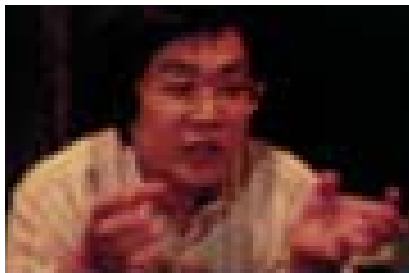
▶ NSPIXP

網の目のように張りめぐらされている日本のインターネット。そのへそにあたるのがこのNSPIXPだ。神秘のベールに包まれていたその日本のインターネットの「へそ」を本誌で独占大公開!

秘密のハイテクルームに 本誌初潜入!

都内某所のビルにあるNSPIXP。ここはその重大な任務から場所を明かされることはない。取材班が案内されたその場所も、何重ものロックとセキュリティシステムにより厳重に守られたコンピュータールームであった。案内をしていただいたのはWIDEプロジェクトの中村修さん。

1台数千万円もするルーターやギガスイッチが入ったラックの並ぶ研究室は空調システムとマシンの音で部屋自体がうなっていた。



◎ NSPIXPの守護神、中村修さん。

ところで、NSPIXPは何故「へそ」と呼ばれているのだろうか?

「以前はプロバイダーじゃないのかという、間違った認識もされていました(笑)。本来は、各プロバイダーをつないで、実際にそれを運用しながら、ネットワーク間の接続時に生じる諸問題を研究するのが目的で始められた共同実験だったのです。しかし、近年の急増するプロバイダー業者が次々に接続してきて、ここに集中するようになり、いつのまにか『へそ』と言われるようになったみたいです」

日本のインターネットを支える大黒柱!

取材班が訪れたこの日は、新たにNSPIXPに回線をつなぐプロバイダー用の工事が行われていた。そのおかげで、普段は見ることができないラックの裏側や床下に広がる色とりどりの回線も拝見させていただいた。中村さんも汗だくで仕事。聞くところによると、スタッフは携帯電話やポケベルを貸与されており、緊急事態のときにはすぐ現場に急行できるようにになっているという。ネットワークの研究と管理に休みなく働く彼らがいるからこそ、インターネットは今日のように普及できたのだろう。



◎ 作業は意外と力仕事が多いという。汗だくで作業をするみなさん。



◎ ルーターやコンピュータがぎっしりと詰まったNSPIXPの心臓部ともいえるラック群。

プロバイダーの老舗に直撃取材。 インターネットへの発着駅の仕事とは？

▶ IIJ

日本国内だけで約700社に上るプロバイダーとは、いったいどんなところなのだろう。国内最大手のプロバイダーの1つであるIIJにその仕事とは何かを取材してみた。

プロバイダー



IIJ URL <http://www.ij.ad.jp/>

インターネットへの 扉を開くプロバイダー

個人のインターネットユーザーのほとんどがどこかのプロバイダーに加入していることと思う。そんな個人ユーザーにインターネットへの扉を開いてくれるプロバイダーとはいったいどんなところなのか。大手プロバイダーの1つで、昨年12月から個人向けの新しいサービス「IIJ4U」を始めたIIJ（インターネットインシアティブ）を訪ねてみた。

ユーザーが増えるのも 痛しがゆし！？

今回話をうかがったのは運用部部長の三膳孝通氏。運用部の仕事は新規申し込み者の受け付けからユーザーサポート、サーバーなどの施設に関する管理運営まで、ユーザーと関わる部分すべてに及ぶ。三膳さんの言葉を借りると「ユーザーをゆりかごから墓場まで面倒をみる」ことだ。

面倒をみると言っても、今でこそさまざまな質問と回答はデータベース化されているが、昔は大変だったらしい。94年5月のPPP接続サービス開始当初は、「インターネットって何？」というところから説明しなければならなかったという。それに比べれば多少楽になった

と思うのだが、プロバイダーの宿命である設備投資の大変さを忘れてはいけない。

「ネットワーク分野は技術の進歩が速い。回線の増強や設備の更新が疲れるほど早いですよ」とマーケティング室室長の金子さん。インターネットが普及すればするほど会員数が増えるから、設備はどんどん増強・刷新しなければならない。三膳さんは「さまざまな機器類は、減価償却期間が終わるころにはもう何世代も昔のものになってしまい、使えませんからね」と苦笑いする。

プロバイダーは 空気と同じだ

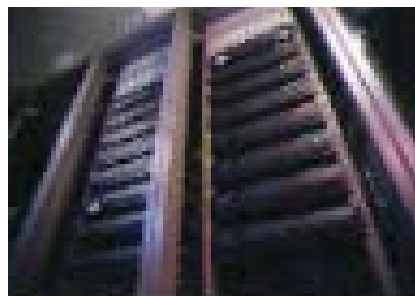
しかし、今は設備投資を惜しんではいられない。

「インターネットユーザーは、インターネットにつなぐこと自体が目的ではないんです。ネットサーフィンをするとか電子メールをやりとりするとか、接続の先に目的があるので。プロバイダーの一番の仕事は、ユーザーにプロバイダーを意識させることなくインターネットに接続していただき、それぞれの目的を気持ちよく達成していただくこと。空気のような存在であるべきだと思います」

考えてみるとつながって当たり前、トラブル

のときに減点だけされる厳しい商売だ（笑）。

今後、インターネットがさらに普及し、パソコンだけではなくテレビや専用端末などでインターネットを利用するユーザーが一般的になったとき、それこそ「空気のように」使えよう、今後もがんばっていただきたい。



① IIJ4UのあるNOCに設置されたDSU（上部）とリモートアクセスルーターの一部。このリモートアクセスルーター1つだけで46回線をサポートしている。

普段はプロバイダーを意識せずにインターネットを利用しているが、意識させないことこそプロバイダーの一番の勲章なのかもしれない、と感じた取材だった。





プロのネットサーファーはすべて 人力で最新情報を集めていた！

▶ YAHOO! JAPAN

インターネット初心者からベテランまで、毎日のお世話になっているサーチエンジン。いったいどのようにしてあれほど膨大なホームページ情報を蓄積しているのだろうか。



ヤフー(株) チーフサーファー
及川正隆氏



僕らの強い味方、 サーチエンジン

インターネットユーザーなら誰でも一度どころか毎日のお世話になっているサーチエンジン。しかし、その裏側は意外と知られていない。

たとえば、個人ユーザーでは見つけれない膨大な量のホームページ情報はどのようにして蓄積されているのだろうか。そして、その情報をどのようにしてユーザーに使いやすいように整理分類しているのだろうか。

今回はサーチエンジンの草分けと言えるアメリカのYAHOO!の日本版であるYAHOO! JAPANに話をうかがってみた。



ネットサーフィン100本ノックだ！ 人間がホームページをチェックして登録

YAHOO! JAPAN(株ヤフー)は、東京は箱崎にある。オフィスにうかがい、チーフサーファーの及川正隆氏に話を聞いてみたところ、ホームページのチェックはプログラムによる自動収集ではなく、すべて人間が行うということだった。その作業は10人ほどの「サ

ーファー」と呼ばれるスタッフたちによって、それぞれいくつかの専門カテゴリー別に分担して行われているという。

YAHOO! JAPANには、ホームページ登録の依頼だけで1日に500件も寄せられる。それには各ホームページのオーナーによる分類や紹介文が添えられているのだが、それをそのまま登録することは決してしない。まず、各サーファーがその1つ1つのホームページにアクセスし、すべての内容をチェックする。そして、おのおのに独自のコメントを付けたのち、責任者のチェックを受け、やっと登録されるのだ。

スタッフは政治経済の専門家から海外留学経験者、風俗の専門家まで、それぞれが各カテゴリーについて深い造詣を持った人間がそろっているという。

しかし、YAHOO! JAPANではなぜこんな手間のかかることをしているのだろうか？

「ひと言で言うと、ユーザーにとって使いやすい有益な検索結果を出すためなんです。確かにロボットを使えば短時間でたくさんの情報を集められますし、依頼どおりに分類登

録すれば手間もかかりません。しかし、それでは統一性がなく信頼度の低い検索結果しか出せません。私たちはユーザーが有益で確実な検索結果を求められるように、サーファー1人1人が責任を自覚してチェックしているのです」



遊んでこそ面白いページが 見つけれられるのだ

となると、その作業に追われて徹夜も当たり前とつい考えてしまうのだが、そんなことはないらしい。就業時間は午前9時から午後5時45分まで(もちろん残業することもあるが)。金曜日の夕方にはビザパーティーが開かれるなど、アメリカンタイプのビジネススタイルは本家(?) YAHOO! 譲り。スタッフの面々を見ていると、オフタイムの充実が各スタッフの仕事のレベルと効率をアップさせるということを実感させられる。それはYAHOO! JAPANにアクセスしてみれば分かるだろう。

データの収集や整理にはもちろん専門知識や労力が必要だが、それより大切なのはユーザーに対する思いやりなのかもしれない。



YAHOO! JAPAN URL <http://www.yahoo.co.jp/>



日本のインターネットの伝道師とも言われる慶應義塾大学の村井純助教授。インターネットの爆発的な普及のきっかけを作ったのがこの研究室なのだ。どんなハイテク研究室なのだろうか。さっそく潜入だ。

▶ 慶應義塾大学 村井研究室

日本のインターネット最先端には 冷蔵庫と炊飯器が常備！



研究室

インターネットの頭脳が ここに集結！

狭い研究室は低いマシン音と研究生が叩くキーボードの音であふれ、難解な単語が



① パーティションで区切られた研究室の隣にある、ネットワークを管理するマシンルーム。



② いったいいくつの線が接続されているのだろうか？扇風機が1台頑張っている。

日常の会話の中に関わされている…。それだけでも、ここがただの研究室ではないことが感じられるだろう。日本で最初にインターネットを紹介したこの研究室では、現在どんな研究をしているのだろうか？村井研究室の南政樹さんにうかがった。

「私は、次世代プロトコルなどのインターネットの基幹に関する研究をしています。また、研究室としては、通信衛星を使ったインターネット通信やファックスとインターネットをつなげるというような研究を行っています。最近、高齢化問題などの社会と密接につながった研究も盛んに行われています。これが今のトレンドですね」


インターネットの研究者は 徹夜と辛いものが好き？

研究開発は徹夜の連続。そのせいか狭い研究室には炊飯器と冷蔵庫にコーヒーメーカー、そして睡眠用の椅子まである。研究生はなぜか辛いものが好きが多いとか。飲み会では伝言ゲームをもじったIPパケット伝送ゲームで盛り上がる。これは、メッセージをパケットにたとえ、参加している人がルーターになり、メッセージを伝えるのだ。伝えたくなけ



③ 次世代プロトコル実装などを研究する、研究室の兄貴的存在の南政樹さん。

れば、ファイヤーウォールを立てればよい…。そんな遊び心いっぱいの研究員たち。ネットが世界を変えるとまで言われている21世紀のインターネットテクノロジーはここから世界へとばたたくのだろう。



昼夜なく研究を続けている皆さんには参りました。でも、若いころの徹夜の連続は中年になってからこたえるそうだから体調管理もしてネ！



インターネットライブ

最新インターネットライブをささえる プロ集団に突撃レポート

▶ 坂本龍一 インターネット ライブ

95年武道館での公演以降、インターネットでライブ中継をしている坂本龍一氏。今でこそ簡単にライブを受信できるようになったが、その裏には何人もの人々の尽力がある。今回は1月に行われたライブの舞台裏を追いかけてみた。



あなたの部屋にも
教授の演奏がやってくる？

今まで数々のインターネットライブを成功させてきた坂本龍一氏がコンサートツアー「PLAYING THE ORCHESTRA 1997 "f"」でインターネットライブ中継を実施した。

1月23日に横浜アリーナで行われたライブでは、従来のリアルオーディオやストリームワークスによるインターネット中継に加えて、ウェブの拍手ボタンをクリックすると会場のスクリーンに画像が表示される「Remote Claps」やピアノ演奏のデータを送信する「Streaming MIDI」などの新しい実験が行われた。

また、坂本氏の演奏をMIDIのデータにして送信し、東京六本木にあるインターネットカフェ「CYBERIA TOKYO」に設置されたMIDI対応の自動演奏ピアノでリアルタイムの演奏を実現させる試みもなされたのだ。



華やかなコンサートの
舞台裏は？

たとえば、このライブを自宅で楽しむのであれば、インターネットに接続すればいい。だが、実際にインターネットライブを行うとするならば、まず会場に回線を引き、それぞれの技術を担当するエンジニアを集め、機材などを運び込む作業が必要だ。特に今回のライブではさまざまな技術が使用されているうちに、会場も2か所以上に分かれるため、その準備たるや大変なものであろう。ここでは、横浜アリーナとCYBERIA TOKYOの2か所の舞台裏レポートをお届けする。



① ストリームワークスで受信した映像

② ステージでの坂本氏(写真提供: FOR LIFE)



弁当とペットボトルと パソコンと...

コンサート当日、リハーサル中に横浜アリーナの中継室を取材させてもらった。ステージの裏にある広さ150平方メートルくらいの部屋にはケーブルが張り巡らされ、デスクトップ型、ノートブック型のパソコンがところ狭しと並べられている。ストリームワークスやリアルオーディオなど、技術ごとに担当が異なるため、三菱電機、WIDE、DABB、DTI、YAMAHAなどの各担当者が列ごとに分かれて座って作業をしていた。いったん、作業が始まると席を離れられないので、空い



● 客席中ほどに置かれたMIDI配信用のウィンドウズNTサーバー。



横浜アリーナ中継室



● 楽屋の一室が中継室に早変わり。ストリームワークス、MIDIなど、各種担当ごとにテーブルが分かれている。

ている時間に弁当を食べたり、ペットボトルを傍らに置いていたりといった光景が印象的だった。

観客と一緒にコンサートを 聴きながら器材を調節

一方、ステージのほうでは、オーケストラをバックに、坂本氏が本番さながらにピアノを演奏していた。客席の中央には、演奏データをMIDIで配信するためのサーバーやステージのスクリーンに投影する映像を作る装置が

● ダイアルアップ接続でストリームワークスを受信しているところ。受信状況を確認している。



置かれていた。このようなリアルタイム性が重視される場合には、機材を機材を客席に置いて、そこからステージ裏の中継室に送信していたという。

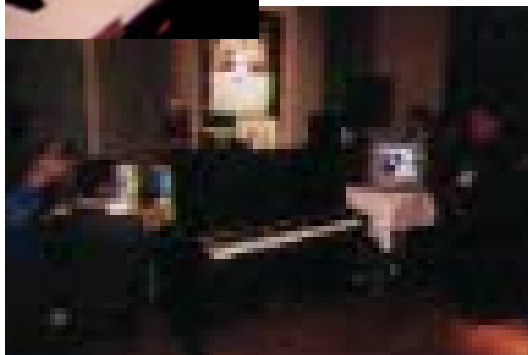
CYBERIA TOKYO

まるで生演奏？ 自動演奏ピアノによるライブ演奏

さて、こちらはコンサート本番中のCYBERIA TOKYO。ストリームワークスの中継を映したモニターの脇に自動演奏ピアノが置かれ、MIDIで送信されてきたデータを再生し



● これが自動演奏中のピアノ。鍵盤だけでなくフットペダルも動いていた。



ていた。横浜アリーナから送られてきたMIDIデータが自動演奏ピアノに送信され、鍵盤が自動的に動いて曲を自動演奏していたわけだ。その場で聞いていると、あたかも坂本氏がそこで演奏しているかのような錯覚にとらわれてしまう。なんとも不思議な気持ちだった。

現場で活躍する ボランティア学生集団

このCYBERIA TOKYOでのライブは、会場の都合から一般の入場はできなかったが、取材関係者や招待客でよかったがえしていた。

ライブ中継を始めるに当た

● ピアノの脇にいる担当者はストリームワークスでライブの映像と音を確認しながら、やや遅れて配信されるMIDIデータの速さを調節していた。

って、マイクロソフト会長古川亨氏からは「村井先生のところから学生さんを出していただいて、今日の2時ごろからこの天井から下までイーサネットを張って、コンピュータに映像が映るようにしてしまいました。今回のライブは、学生さんが新しいプラットフォームをうまく活用して1つの文化を作っている例ではないでしょうか」との挨拶があった。

CYBERIA TOKYOは128K回線が引かれているインターネットカフェなのだが、それでもライブのデータを受信するとなるといろいろと準備にも手間がかかることだろう。今後のイベントでも今回参加した大勢のスタッフが活躍してくれるに違いない。

MIDIピアノでライブが再生される光景は感動的。自宅で教授の演奏が聴けるのも夢じゃないかも？





インターネットラジオ

ガムテープで止めた 小型カメラの映像が世界で見れる

▶ 湘南ビーチFM

昨年11月よりリアルオーディオを使用してインターネットの本格放送を開始した木村太郎さん率いる湘南ビーチFM。神奈川県葉山マリーナーの一角にあるFM局がいまインターネットで大人気！その魅力と舞台裏とは？



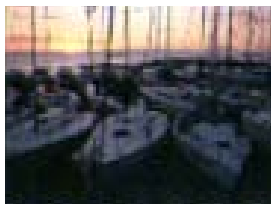
Welcome to Beach FM

URL <http://www.beachfm.co.jp/>

○ 左上のラジオをクリックすると番組が聴ける

湘南ビーチFMの ココがすごい！

湘南海岸をアメリカ方面に数キロメートル走ったところにある葉山マリーナー。ちょっと寒いけどここまで来ればもう、気分は西海



岸だ。マリンスポーツで知られるこの地は、夏ともなれば湘南の顔として多数の観光客が訪れるリゾートスポット。そのマリーナーの一角にあり太平洋を一望できる場所に位置するのが湘南ビーチFMのスタジオだ。平成5

年12月に開局して以来、地域に密着したコミュニティ放送局として地元貢献してきたのだが、昨年11月からはリアルオーディオ3.0を使い世界にむけて本格的にインターネットの番組放送を開始。その反響は国内はもとより、海外からも大きく、出力10W（半径約30キロメートルの範囲で聴けるぐらい）の放送局はたちまち世界のFM局へと変貌した。

1人3役は当たり前！ マルチなスタッフが集結

湘南ビーチFMのホームページは毎日約2万以上ヒット、JAZZライブが聴ける番組「ワンナイトスタンド・バイザシー」（毎週土曜日夜8時～10時）は、4か月でアクセスした人が5万人を超え、毎日届くリスナーから

のメールは海外にいる日本人のみならず、各国に固定ファンができつつあるという。その人気の秘訣とは何だろう？番組制作に携る余西智絵さんにお話をうかがった。

「放送局としてのローカル性と海を意識したクールな選曲が大人に受けているからでは？」とのこと。

ところで、インターネット関係の仕事やライブ収録、番組制作などはかなりハードな仕事を何人でこなしているのだろうか？

「実質的には3人なんです。みんなディレクター兼営業や総務です。私の場合はそれにパーソナリティーも兼ねているのですが、ホームページは、今のところ社長自らがHTMLのタグを打って更新してくれています」

なるほどもう1つの人気の秘訣は手作りの温もりのようだ。



○ 太平洋が一望できるマリナーにある、最新のインターネットスタジオ。

もう、これはラジオじゃない！
映像とチャットが楽しめる

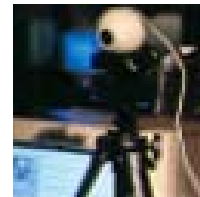
今回、毎週土曜日の深夜11時から翌朝1時までの2時間番組「ドリーム・トレイン・エキスプレス」(http://www.dti.ad.jp/express)のスタジオにおじゃました。この番組はプロバイダー会社でもあるドリーム・トレイン・インターネット(以下DTI)が手がけるオンエアプログラム。スタジオのテーブルには、DJやスタッフを映し出すCu-SeeMe用カメラが1台、チャット用のラップトップコンピュータが2台あり、リスナーはオンエア中いつでもDJの顔を見ながらチャットで交信できるようになっているのだ。

番組の送出に関しては、葉山のスタジオとサーバーのある東京のDTI本社を結ぶ256Kbpsの回線が使用されている。リアルオーディオとCu-SeeMe用には、パワーマッ

キントッシュ2台がスタジオ内でLAN接続されていた。多くのリスナーが番組に参加できるように、リアルオーディオの音質設定は14.4Kbpsに、Cu-SeeMeは白黒画面にしているそう。これは約50人のリスナーがCu-SeeMeやチャットで番組に参加できる設定とのこと。取材班が訪れた日も、深夜11時からの放送にもかかわらず、8時過ぎにはすでにチャットでリスナー同士が話している状態。本番中、進行役である2人の「チャット部隊」は休む間もなくリスナーと交信していた。ときにはチャットが番組終了後の朝4時まで続くこともあるというから、この番組のファンは結構「濃い」のかも？ 毎回約200人以上がアクセスする番組はこのプログラム以外にはないだろう。

JAZZの大人のイメージが
世界に通じた

湘南ビーチFM局の大きな特徴は「JAZZ」の選曲が多いことだ。そんな局のイメージが海外に固定ファンを増やしているのだろう。



○ 本番中のドリーム・トレイン・エキスポのスタジオ。

○ DJやCDのジャケットを映し出すカメラ。ビニールテープで固定されていた。

先端技術を取り入れながら、リスナーとの新たなコミュニケーションを考える湘南ビーチFMの動向はこれからも目が離せない。

電波の限界を超えて世界に発信を始めた湘南ビーチFMには、インターネットブロードキャストのノウハウがぎっしりあるのだ！

ペルー
帰りの

木村太郎さんに
聞いてみました

ネットの情報をフル活用し、世界を駆け回るジャーナリストであり、湘南ビーチFMの社長でもある木村太郎氏にお話をうかがった。

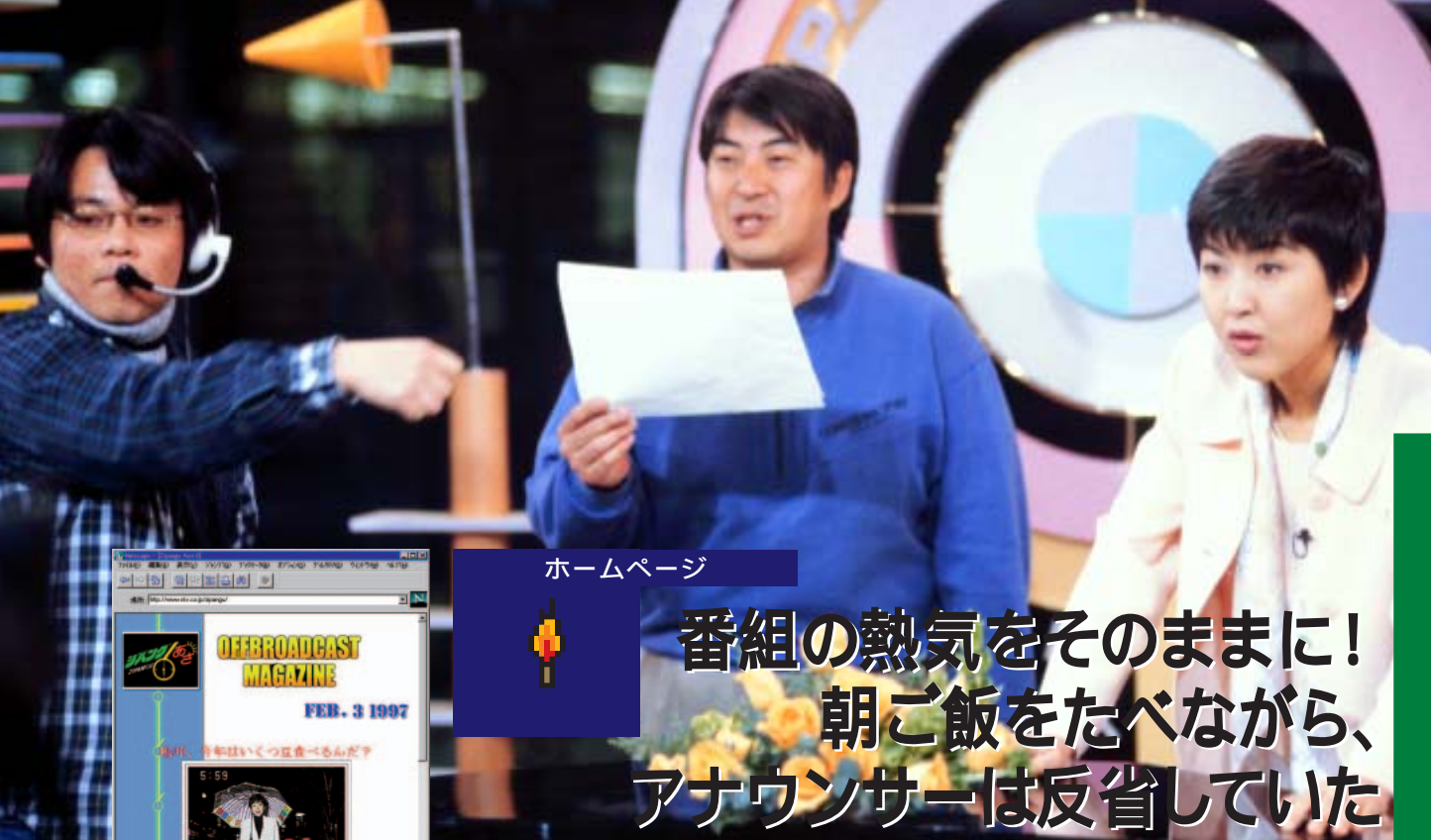
- 何故、ラジオ放送をインターネットで放送しようと思われたのですか？
- 湘南ビーチFMは地域密着型の放送局です。もちろんインターネットで放送することで世界が対象になりますが、普段知ることができない土地のローカルな情報こそが、インターネットブロードキャストであると思ったからです。
- 番組ではJAZZを含め、最新のヒット曲なども聴けるのですが、著作権処理はどうな

- っているのですか？
- 基本的には番組プログラムがそのままリアルタイムで聴けるので、その問題は避けて通れないのですが、国際的なルールや著作権に関する規定が決まった段階で処理ができるようにJASRACの了解を得ています。
- インターネットはメディアとして確立したと思いますか？
- いろいろなホームページを見て感じることは、新聞社は文字中心、ラジオ局は音声放送、テレビ局は動画というように、それぞれが専門分野の領域で留まっているように思えます。インターネットは新しいメディアなので作り手はそろそろ頭の切り替えが必要です。たとえば、ニュースは即時性が命とも言われますが、オンデマンドのニュースも受け手に親切なのではないかとも考えられない

阪神淡路大震災やペルー取材など、常に精力的な活動で知られている木村太郎氏。



でしょうか？ さまざまなソフトがハードの可能性を広げたことで、新しいメディアとして確実に動き出したと言えるでしょう。今ではM.マクルーハンが言った「地球の裏側を映しだすもの...」というのは、インターネットのことではないかと思っています。



ホームページ

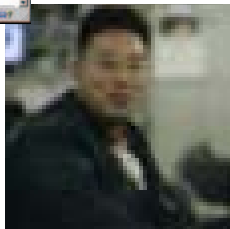


番組の熱気をそのままに！ 朝ご飯をたべながら、 アナウンサーは反省していた

▶ ジパングあさ6



ジパングあさ6
URL <http://www.ntv.co.jp/zipangu/>
◎ 裏ジパングやアナウンサーのファンが勝手にホームページを作るほど人気がある。こちらは本物の番組公認ホームページ。

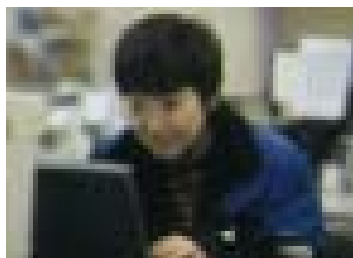


明るくすがすがしい山王丸アナウンサーの声で始まる日本テレビの番組「ジパングあさ6」。高視聴率で人気のこの番組が発信するホームページはどのように作られてゆくのだろうか？

◎ かの有名な「進め！電波少年」のディレクターを経てインターネットに殴り込みをかける中西太ディレクター。

ホームページも 話題の人気番組

月曜から金曜日の朝5時59分から日本テレビ系列で全国放送されている「ジパングあさ6」という1時間番組をご存知だろうか。早朝の時間帯にもかかわらず、主婦層の圧倒的な支持を受け、常にふた桁台の視聴率を獲得している高視聴率番組である。番組のホームページも人気が高く、1週間でヒット数は約1万。番組のディレクターでもあり、



◎ 「女子アナ反省日記」を執筆中の山王丸アナ。

このホームページを企画運営している中西太さんに聞いてみた。

「ホームページを公開したのは、番組制作に携わるスタッフが何を思い、考えているかを伝えたかったからです。本番中に感じたことや、取材中に見つけたことなどを文章にすることで、仕事から離れた僕たちのオフな感じや、アナウンサーの成長していく姿を見てもらえればと思っています」

超人気！ 女子アナウンサーの反省日記

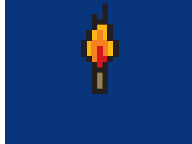
ホームページは、放送終了後に各コーナー担当者がテキストを作成し、中西ディレクターに提出。テキストをまとめたあとにオンエア同録のVTRからコメントに合った画像を選んでホームページを作成し、でき上がりを再確認したうえで、ウェブを更新するという段取り。なおホームページの作成は局の関連会社に業務を委託している。

番組のホームページでダントツの人気コーナー「女子アナ反省日記」を担当する山王丸和恵アナウンサーは、毎日寝の前やお風呂に入りながら翌日のコメントを考えるほどこのコーナーにはまっており、番組終了後の短い時間に原稿を書くことがとても楽しい様子。

毎日更新がポリシーのホームページだけに、記事のできないコーナーは“File Not Found”状態になっているそうだが、「テレビ屋が作る本」として、ていねいな日記をこれからも続けていく強い前向きな姿勢はとてもいい感じ。文字だけでこれだけ読ませるホームページの制作テクニックは必見の価値ありだ。皆で女子アナの成長を見守ろう！

早朝からスタジオにおじゃましたにもかかわらず、スタッフの皆さんの明るいパワーにはビックリ！プロデューサーの優しいご配慮に感謝の1日でした。





画像の修正はまさに職人ワザ 世界で1枚のセーターには 意外な苦勞が

▶ インターニット

インターネット+ニット=インターニット。画像を送信すれば自分だけのオリジナルニットが作れるこのシステム、その舞台裏はどうなっているのだろうか？



インターニット

URL <http://www.interknit-sato.com/>

世界に一着しかない ニットを作ろう

インターネット通販は数あれど、服のオーダーメイドに対応してくれるところはまだ少ない。長野県諏訪市にあるニットの製造会社、株式会社サトーのインターニット事業部が運営している「インターニット」はそんな要望に応えてくれるホームページだ。

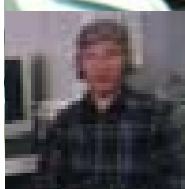
インターニットというのは、自分の好きなイラストや写真を編み込んだニットのことで、申し込みから注文までがすべてインターネットでできてしまうユニークな試みだ。

そこで、実際にインターニットの制作現場におじゃましてお話をうかがってきた。

画像は手作業で修正され 写真そっくりに

まず、最初に通された部屋には、マッキントッシュ2台とニット用のCADが置いてあった。このマッキントッシュで注文主から送信された画像データが受信してPhotoshopで4色に減色するのだ。4色というのは、画像をニットの編み目で表現し、なおかつコストをおさえるためのぎりぎりの色数らしい。

減色された画像はとなりにあるニット用の



○ シミュレーション画像を作っている大滝俊隆さん。

CADに移され、クリアな線や立体感を出すために、1ドットずつペンで入力されていく。これはかなりの技術と根気がいる作業である。この画像処理をしているのが、同社の大滝俊隆さんだ。

「この画像修正の仕方によってできがりの柄に差が出てくるのです。より立体感ができるようにお客様からいただいた画像を修正しています」

その後、修正された画像は体の丸みにあわせてニットの形に加工されて「バーチャルセーター」と呼ばれるシミュレーション画像ができあがる。それをウェブに上げて、注文主に確認してもらってからニットを編み始めるそうだ。お値段は1着45,000円。注文から製品の発送まで約3週間かかるという。

似てないぞなんて クレームは1件もなし！

しかし、これほど大変な作業もシミュレーションまでは無料で受け付けているそうだ。このあとで注文がキャンセルになったらどうするのだろうか。大滝さんは自信を持ってこう語ってくれた。

「一応、うたい文句としてシミュレーションまでは無料ですよと言っていますので、それはそれでいいわけです。いままでも400件近く注文を受けましたが、製品に対するクレームは1回もないですね」

○ 1ドットずつ画像を修正していく。このCADの機械は1,800万円するそう。

図解 インターニットの できるまで



画像を修正していく様子はまさに職人技！





ライブカメラ

雨の日も風の日も、カメラは 健気に富士山を見つめていた

▶ 富士山ライブカメラ(YBS)

都市の顔や雄大な山々から南国のビーチまで、
部屋の一室から日常の移り変わりを映し出す
ライブカメラの裏側を探ってみた。

📍これが富士山を映すカメラだ



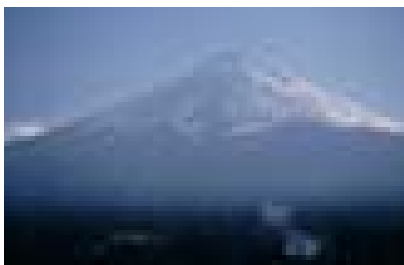
YBS

URL <http://www.sannichi-ybs.co.jp/YBS/>



世界の“今”を
のぞき見る

ライブカメラとは、定点に設置したビデオカメラによってライブ(生)の映像をインターネット上に流すもの。オフィスの金魚鉢や研究室のコーヒーポットから地中海に浮かぶロードス島やエベレストまで、世界中のあらゆる場所を映し出すインターネットの窓のようなものだ。今回はそれらのライブカメラの1つとして富士山の今の姿を伝えているライブカメラを見てみよう。山日YBSグループ山梨放送のインターネット事業部に、ライブカメラについて、そのシステムや裏話など、いろいろ



とお話をうかがってみた。



これが、ライブ映像を
映すシステムだ

山梨放送がインターネットに流しているライブカメラの映像は富士山、南アルプス、ハケ岳の3つ。このなかで、富士山を映し出すカメラは富士山頂から見て北側、富士吉田市のとあるホテルに設置されている。

では、まずこの山梨放送のライブカメラのシステム構成から説明しよう。設置されているカメラは放送局の、いわゆる業務用のもので、甲府市にある本社からリモートコントロールで上下左右どの方向にでも向けることができ、さらにズームイン、ズームアウトが可能となっている。このリモートコントロールは、モデムと一般の電話回線を使用して行っているという。

面白いのは、そのカメラのレンズの前にはワイパーが装備され、さらにウォッシャー液まで備えられていることだ。カメラは雨や雪



📍 カメラが捕らえた映像は、このパラボラアンテナからマイクロウェーブで富士山2合目にある送信所に送られる。

📍 カメラのレンズの前にはワイパーが装備されている。これによって、雨や雪の日でも、クリアな映像を送ることができるのだ。

にさらされる屋外に設置されているのだから、これらの装備は当たり前といえば当たり前ののだが、なんとなく微笑ましい感じが



50km先から リモートコントロール

カメラが捕らえた映像は一般電話回線や専用線ではなく、マイクロウェーブ（無線）で本社にあるサーバーに送られる。カメラ側の送信出力の関係から、カメラはまず富士山2合目にある送信所に電波を送出する。次にそれを中継した送信所が三ツ峠にある反射板に向けて送る。その反射板で電波を甲府方向に変えてやっと50km先の甲府のYBSに到着するわけだ。通常、ライブカメラはサーバーに直結されているから、このシステムはきわめて珍しい放送局独自の方法といえる。

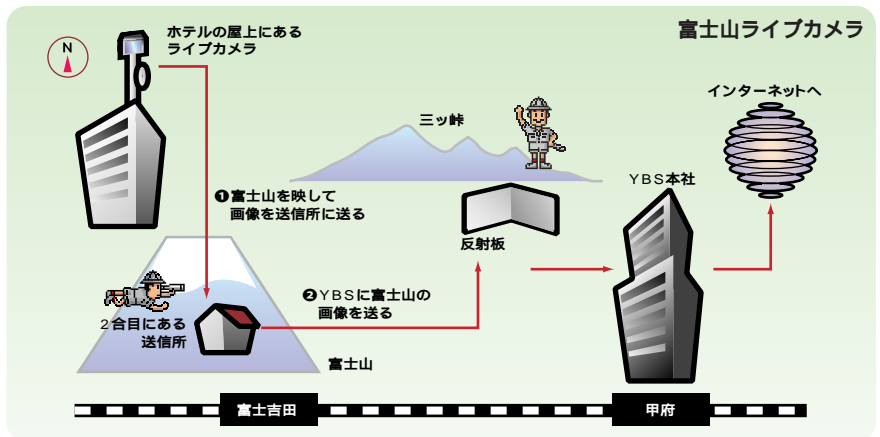
本社のアンテナで受信した映像データは、YBSのウェブサーバーとは別の、ライブカメラ専用のサーバーに送られる。ライブカメラから送られてくるデータが大きく、またアクセス数も多いため、これだけは別のサーバーを立てているそうだ。ちなみに、ライブカメラ専用のサーバーマシンはマッキントッシュのパフォーマ5320である。



1日数千枚の 画像が溜まる！

山梨放送が富士山のライブ映像をインターネットに流し始めたのは95年11月。しかし、実はそれ以前からカメラは設置してあった。放送局の本来の業務、テレビ放送の天気予報や朝夕のニュース番組で使用していたのだ。ところが、その番組放送時以外はカメラは遊んでいる。「それならば」というわけで、当時推進していたインターネット事業の一環として、ホームページにライブ映像を流すことになったという。

24時間、絶えずライブ映像を送出してい



るとなると保守管理の苦勞も並大抵ではないだろうと思ったら、実はそうでもないらしい。山日YBSグループインターネット事業部の清田幸彦氏にうかがった。

「ライブカメラとサーバーは、一度設置して調整してしまえば、あとはメンテナンスの苦勞などは特にありません。それよりも、1日で何千枚と溜まっていく画像データの整理が大変です」

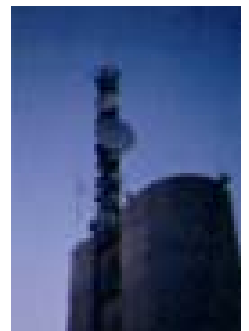
ライブカメラのページにはギャラリーが併設されているのだが、そこに載せる画像を選ぶだけでも大変なのだそうだ。これらの画像は、地質学の研究所から研究用に使いたいという引き合いもあったという。考えてみれば、何年にもわたって同じ場所の画像をデータベース化しているのだから、専門家にとっては格好の資料となるのだろう。たとえば、富士山にかかる雲の形と天気や地殻の動きのデータとの関連を調べたりする、といったように。



元旦のサーバーダウンで 一年が始まった

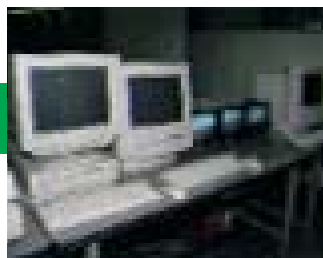
ただ、もちろん何の苦勞もなかったわけ

●山梨放送本社屋上に建てられた受信アンテナ群。この中の1つがライブカメラの映像を受信しているのだ。



はない。もともとが放送用であり現在もそれに使用しているカメラなので、スイッチング（切り替え）を間違えて放送用の映像をインターネットに流してしまったこともあるらしい。また、昨年の大晦日から今年の元旦にかけては、初日の出を見ようとする人のアクセスが集中し、サーバーがダウンしてしまったという。

「アクセスしてくれた人には申しわけないし、一年で一番大切な映像のデータが保存できませんでした」と清田氏は照れくさそうに話してくれた。



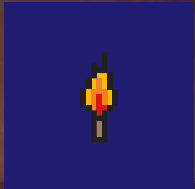
① サーバマシンはマッキントッシュのパフォーマ5320。その右の3つのモニターで富士山、八ヶ岳、南アルプスの各ライブカメラの映像をモニターしてる。



② ライブカメラのリモートコントロール装置。カメラの角度やズームはモデムと一般電話回線を使って行う。



映像を通して運営している人の気持ちと視線が分かった。今度はカメラの向こう側に思いを馳せて世界一周してみるのも楽しそう。

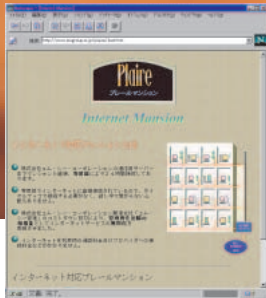
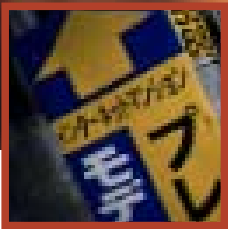


インターネットマンション

インターネットユーザーの 垂涎の的になるか？ 住人の感想は「もう引っ越せない！」

▶ インターネットマンション

昨年、新聞をにぎわしたインターネットマンション。高速回線でインターネットを使い放題という話は本当なのだろうか。そのシステム構成を取材し実際の入居者に話を聞いてみた。



Internetmansion

URL <http://www.mcgroup.or.jp/plaire/inet.htm>

無料でインターネットを使い放題の インターネットマンション！！

一度入居してしまえば、別料金を支払わなくても高速な専用線で24時間インターネットを使い放題という、個人ユーザーにとっては夢のような好環境が得られるインターネットマンション。

しかし、それらのマンションのほとんどが今年竣工ということで、そのシステムや入居者の利用の実態はまだ伝えられていない。そのシステムはどのようなものなのか。ダイアルアップに比べてどれくらい快適なのか。

上記のうち、マンションの建物に付帯するインターネットに関するシステム関係について、現在すでに5棟ものインターネットマン

ションを手がけているエム・シー・コーポレーションに取材してみた。また、入居者の利用状況についても、実際の入居者にインタビューができたのでお伝えしよう。

マンション1棟 まるごとLAN

まずは、マンションに敷設されているネットワークの環境を説明しよう。マンションの各戸は10Base-TによるLANで接続されている。各戸のある部屋、たとえばリビングルームには、電話のモジュラージャックのように10BASE-Tのジャックが口を開けているわけだ。この回線はマンションの管理ルームにあるセキュリティボックス（ハブ機能とセキ

ュリティー管理機能を備えたハードウェアと考えると欲しい)で取りまとめられ、192Kbpsの専用線でエム・シー・コーポレーション内にあるサーバーに接続されている(実際はエム・シーグループのプロバイダーであるエム・シーインターネットのサーバーを利用している)。

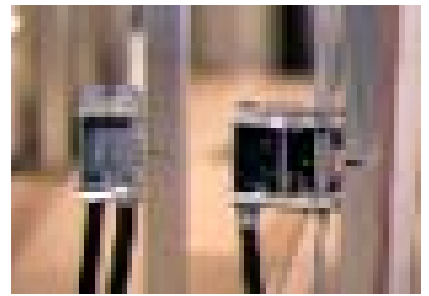
マンションの建物内はLAN接続なので、自身でネットワークボードを購入し、入居者は入居時に受け取ったIPアドレスやメールアドレスなどを設定することになる。ダイアルアップに比べると設定は若干複雑そうに思えるが、これまで接続設定に関するトラブルはないという。



① 東京、荻窪に建設中のインターネットマンション「ブレイル荻窪」。外見は普通のマンションと変わらない。



② 管理ルームのセキュリティーボックスから出た10Base-Tケーブルが、この穴を通して各戸に配される。



③ 10Base-Tのジャックは、電話のモジュージャックと同じように壁面に埋め込まれる(まだ配線はなされていない)。工事が終了すれば見えなくなる部分だ。

快速接続で 利用時間が2.5倍に!

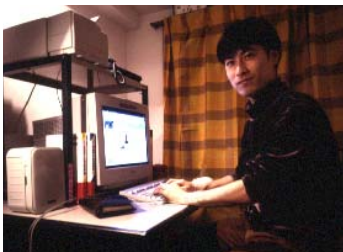
それでは、実際の使い心地はどのようだろうか。インターネットマンションの1つにお住まいの藤田健太郎さん(27歳)にお話をうかがったので、その“生”の感触を紹介しよう。

藤田さんがインターネットマンションに入居したのは昨年11月。インターネット歴は約1年だ。それまで住んでいたところでは、当然のようにダイヤルアップでインターネットを利用していたが、そのころの利用時間は週に4時間程度、ひと月でも20時間程度だったという。それが、インターネットマンションに引っ越してからは週に10時間、ひと月に50時間と、利用時間がなんと2.5倍になっている。

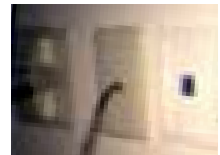
インターネットの利用目的は、ネットサーフィンと電子メール、それにニュースグループ。コンピュータのシステム関連のお仕事をなさっているということで、モバイルコンピュータ関係のページやニュースグループ、それに趣味のウインタースポーツの情報ページなどをよく見ているという。

一度住んだら もう引っ越せない!

専用線接続になって何がよかったかを藤田



④ インターネットマンションにお住まいの藤田さん。快適な環境に満足しているという。



⑤ モデルルームと10Base-Tのジャック。部屋自体は普通のマンションと変わらない。パソコンが置かれているのが唯一の自己主張。

さんに聞いてみたところ、

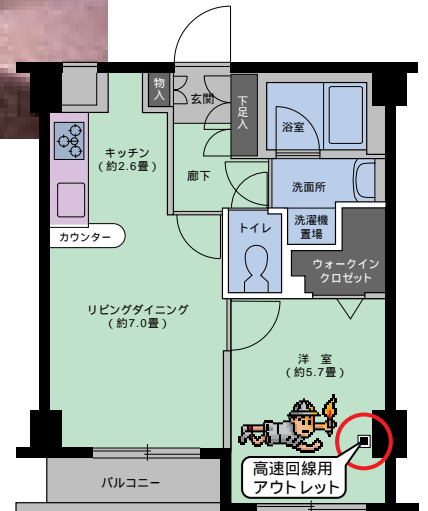
「まず、接続の際にモデムの音がなくなって静かになったのがよかったです(笑)。それに、やはりなんといっても速度が速いうえに接続料が無料というのが一番です。接続もスムーズですし」

ということだ。また、今後引っ越すとしたら、という質問には、

「できればここにずっと住んでいきたいですね。今後専用線なしの部屋に引っ越してダイヤルアップ接続に戻ったら、ストレスは溜まるし、電話代が大変な額になって怖いことになると思いますよ(笑)」

と語ってくれた。

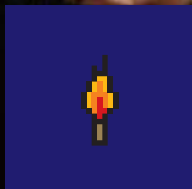
これらのマンションはLAN接続ということで、ある程度はネットワークの知識が求められる。しかし、ISDNの普及やOCNのサービス開始で個人ユーザーの高速回線によるインターネット利用が身近になったとはいえ、その利用料金はまだまだ個人にとっては安いとは言えない。そんななか、無料で高速回線を使い放題というこれらのマンションは、ヘビーユーザーなら引っ越すときに一考の価値が



あるものだ。まだまだロケーションは限られているものの、今後の不動産業界の積極的な導入を期待したい。

個人で専用線を契約すると10万円は下らない。それが無料なのだから藤田さんが満足するのもうなすける。話を聞くほどにうらやましく思えてきた。





SOHO

プリントアウトの合間に洗濯＆買い物 SOHO主婦の1日レポート

▶ SOHO主婦

● SOHO主婦の1人、市川祐子さん。

本誌では、主婦の方々に制作の一部を手伝っていただいている。自宅で仕事をする彼女たち、名付けて「SOHO主婦」の実態と気になるその生活とは？

本誌DTP制作は主婦が担当？

毎月記事部分だけで300ページ近くあるインターネットマガジン。すべてのページをDTPで制作しているため、その作業だけでも大変な量になってしまう。そこで昨年、本誌のデザインとDTP制作をしているデザイン事務所「ページフィールド」から「比較的自由な時間がある主婦の方々にDTPを手伝ってもらったらどうだろう」という案が出されたのだ。

「SOHO主婦」の気になる生活

96年の1月にインプレスの電子メール新聞「インターネットウォッチ」で募集告知を行ったところ、多数の応募があった。現在は、そのなかから選ばれた5名の主婦の方に本誌のDTP制作をお手伝いしていただいている。

いまや、なくてはならない存在となった彼女たちを「SOHO(Small Office & Home Office)の略。在宅勤務に近い仕事のスタイル)で働く主婦」ということで、当編集部では「SOHO主婦」と呼んでいる。

彼女たちはどんな環境で仕事をしているのだろうか。また、どんな仕事の仕方をしているのだろうか。そのあたりの気になるところを直撃取材してみた。

仕事の基本は パフォーマ1台

今回お話をうかがったのは目黒区にお住まいの市川祐子さん。1LDKのマンションにPerforma5220、プリンター、MOディスクドライブを置いてDTP制作をしているという。

市川さんはもともとグラフィックデザインの会社でDTPを経験していたそう。そのときに体調を崩してしまったため、会社を辞め

てご主人が嘗む望遠鏡ショップの手伝いをするかたわら家事をしていたという。

「1年くらい前からインターネットを始めたんですが、たまたまこの仕事の募集を見てメールで応募したんです。そしたら、メールで返事が来たので、作品を持ってデザイン事務所に行き、4月くらいから仕事を頼まれるようになりました。でも、最初のうちはQuarkXPress(DTP用のソフト)で文章を流し込むテストをされたり、使い方を教えてもらったりしていましたね」

と語る市川さんだが、現在では本誌の「WE LOVE INTERNET PEOPLE」などの連載ページを中心に月平均で約15ページを担当しているという。

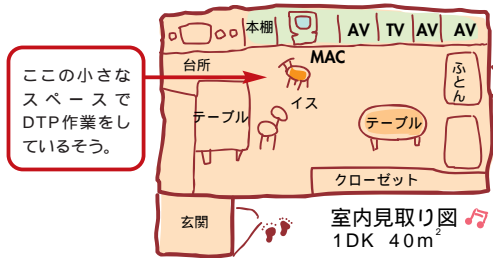
仕事は月に数日間

では、実際の作業はどのように行われているのだろうか。

まず、毎月月初めにデザイン事務所から担当コーナーのDTP制作に必要な素材が送られてくる。FAXでレイアウトが、メールで原稿や画像データが送られてくるそうだ。



○パフォーマの箱がテーブルの下にびったりおさまっていた...



市川さんの1日



- 12:00 ▶ 起床
- 15:00 ▶ 仕事にとりかかる
ずーっとMacに向かう
- 16:00 ▶ ちょっと休憩
- 17:00 ▶ プリントアウトしている
間に洗い物
- 18:00 ▶ データ転送している間に
ちょっと買い物へ
- 19:00 ▶ 夕食のしたくをしながら
メールをチェック
- 21:00 ▶ 夕食
- 26:00 ▶ 就寝

それをもとにQuarkXPressでの制作にとりかかる。だいたいレイアウトが決まっている連載ページとはいえ、スタイルシート(QuarkXPressで使用する文字の大きさや種類が登録されたフォーマット)をチェックしたり、写真の大きさや位置を調節するのが大変なのだそう。

毎月データが届いてから1~2日で仕上げでデザイン事務所にデータ送信して作業が完了する。これは第一段階の大切な作業。この後、校正を繰り返して印刷所にデータを渡して、雑誌がでかあがる。

市川さんが働くのは月に3~4日間くらいなので、それほど負担にならないとのこと。報酬はページ単位で支払われるという。



SOHOしてたら
太ってしまった...

「家で仕事をするようになってからは店がすいている時間に行き物に行ったり、プリントアウトを待っている間に洗い物ができたりとか、空いている時間を有効に使えるようになりました」

SOHOで仕事をする事について、市川さ

んはこんなふうに話してくれた。反対にちょっと困ったこととしては、運動不足と間食のために体重が増えてしまったことだという。SOHO環境にあると自分のペースで仕事ができるが、きっちりと自己管理をする必要があらうようだ。



SOHOと言っても、そこで仕事をするからにはさまざまな設備が必要。機材をゼロから揃えるのはちょっとツライかも。



番外編

プロバイダーマップ

本誌の読者ならば巻末のプロバイダーマップは当然ご存じのはず。網の目のように張り巡らされたマップの制作を担当している本誌編集部三柳英樹に制作秘話を聞いてみた。



約2年で大きさ4倍密度10倍、仕事量?倍

ここ数年、急激に増え続けている日本のプロバイダー。その歴史を記録し続けてきた本誌のプロバイダーマップを担当している三柳。毎月マップに引く線の本数は1500本以上という。

「2年前に編集長の提案で始めたのですが、当時はA3サイズだったんですよ。ところが今



○スタート当時のプロバイダーマップ(1995年6月)と、今のマップ(1997年4月)。

○約660社あるプロバイダーの1つ1つを念入りにチェックする三柳。

はその約4倍の大きさ、しかも今後を考えるとこのサイズでは納まりそうにないので、心配しています。印刷業者からはもうこれ以上大きくできないと言われてますし.....」

印刷業者泣かせのこの巨大マップ、果たしてどうやって制作されるのだろうか。



担当者1人の
家内製手工業?

「基本的にはプロバイダー各社に回線状況やサービス形態を確認して、マップに記入していきます。いちばん「ナンギ」なのは、デザイナーから上がってきた初校のマップに赤ペンでチェックを入れてゆく作業です。これは1件ずつ目で確認しながらの手作業となってしまうので、いくらチェックしても終わら



ないんです」

毎月、締め切り近くなると2日や3日の徹夜を覚悟でマップと格闘する三柳。意外にもチェックは手作業だった。



誕生、消滅を繰り返して変化していく、接続マップは宇宙のよう

この原稿をもとにIllustratorでデータ修正しているのが水谷独さん(ページフィールド)。これだけ数が増えても、各プロバイダー同士を直線で結び、なおかつ用紙の折り目にかからないようにレイアウトしているという。さらに「NEWや回線UPしたプロバイダーは多少目立つようにしている」というのだからオドロキだ。660社近くあるプロバイダーをすべて表示すべく、マップとの戦いは続く...



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社**インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp